

平成21年6月4日

各 位

積水ハウス株式会社
社 長：阿部俊則
本 社：大阪市北区大淀中1-1-88

住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート
「view point」vol.01 発行
ペットとの暮らしと住まい ～飼い主とペットの関係～

このたび、積水ハウス株式会社は総合住宅研究所内にある住生活研究所より、住まいに関する多角度からの調査・研究成果をもとに、住まいづくりや暮らしに役立つ情報をまとめたレポート「view point」の第一号を発信いたします。

今号では、“ペットとの暮らしと住まい”をテーマに一般消費者から得られたアンケート結果をもとにした研究から、飼い主とペット（犬・猫）の関係について特集し、さらに、それらのアンケート結果から見えてくるペットと家族の豊かな暮らしをかなえる住まいの工夫を紹介しています。

今後、積水ハウスでは、総合住宅研究所においてこれまで実施してきた多分野に渡る調査・研究によって得られた蓄積データをもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートや冊子にまとめ、定期的に発信してまいります。

view point vol.01

「ペットとの暮らしと住まい」～飼い主とペットの関係～

- Chapter1 ペットは「わが子」、もはや動物ではない。
- Chapter2 犬らしく元気に遊ぶ姿が好き、でも清潔さは欠かせない。
- ペットと家族の豊かな暮らしをかなえる設計事例。

<総合住宅研究所>

関西学研都市である京都府木津川市に位置する積水ハウスの研究所。住宅の建築技術を担う「技術研究所」、人々の住まい方・暮らしについて提案する「住生活研究所」、体験型施設である「納得工房」という3つの部門より構成されている。中でも、「住生活研究所」では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組み、快眠研究や子ども住環境研究、ユニバーサルデザインやシニア居住研究から、防犯防災対策、家庭菜園など、住まい手にとって有意義な情報の発信や住まいづくりの支援を行っている。

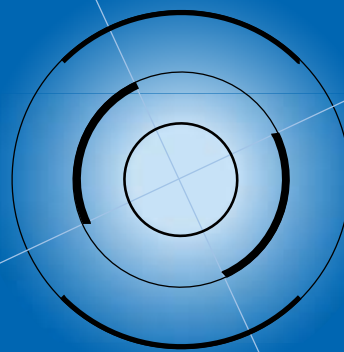
<本件のお問合せ先>

積水ハウス株式会社 広報部

(大 阪) 06-6440-3021 (東 京) 03-5575-1740

e-mail : info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp

積水ハウス株式会社 住生活研究所では、人と暮らしの視点から住まいのあり方について調査・研究に取り組んでいます。多角度からの調査・研究によって得られた成果をもとに、生活者の話題となり、住まいづくりや暮らしに役立つ、わかりやすい情報をレポートとして発信いたします。



「ペットとの暮らしと住まい」～飼い主とペットの関係～

Chapter 1

ペットは「わが子」、もはや動物ではない。

Chapter 2

犬らしく元気に遊ぶ姿が好き、でも清潔さは欠かせない。

ペットと家族の豊かな暮らしをかなえる設計事例。

2008年における犬・猫の総飼育数は2683万9千頭（ペットフード協会調べ）に上り、既に2006年を境に日本の15歳未満の子どもの数を上回っている。飼育数の増加に伴ってペットそのものの位置づけも大きく変化し、今やペットは単なる愛玩動物を越えた存在となっている。同時にペットとの暮らしに強くこだわりを持つ生活者が増え、共に過ごす住まいへの要望・関心は今後さらに高まると考えられる。



■今どきのペットライフ・トピックス

健康に配慮してもらおうペットたち

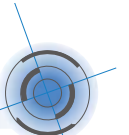
小型のペットに人気が集まるようになり、1匹あたりの給餌量は減少している。しかし、健康維持に配慮した高価な「プレミアムフード」や、飼い主と一緒にケーキやスナック菓子を楽しむ「コミュニケーションフード」の出現で、1匹あたりの食費は増加の傾向。ペットも家族の一員として、健康に気を遣い、間食を楽しむスタイルが一般化している。

家族イベントに参加するペットたち

ペットと一緒に出席できる結婚式「ペット・ウェディング」が増えている。なかでも愛犬が結婚指輪を運んでくる演出「リングドッグ」が人気だ。家族だから、ペットとも喜びをわかちあいたい。

高齢化問題を抱えるペットたち

医療や食べ物、生活環境の充実によりペットの寿命が延びている。それにともない、高齢のペットのための「介護用品」、「ペット保険」、「ペット介護サービス」の需要が増えつつある。ペット霊園だけでなく、「移動火葬場」も急増しはじめている。



Chapter 1

ペットは「わが子」、もはや動物ではない。



2007年に積水ハウスが、一般生活者に対してペット(犬・猫)とその飼い主の関りに着目した独自調査を行なったところ、非常に興味深い結果が得られた。

飼い主が自分のペットを「愛玩動物」だと思っている人は、犬が13.8%、猫が15.2%と、わずかに1割強。その他の9割近い飼い主は、ペットを擬人化して捉えており、もはや「動物」として意識する感覚が非常に希薄だと考えられる。<グラフ1> <グラフ2>

擬人化した中でもっとも多かったのが「子どものような存在」で、犬が49.2%、猫は44.2%と、約半数の飼い主が極めて親密な存在であるとしている。ペットと暮らす家族が増えると同時に、その関係は、わが子のように密接になってきているわけだ。

特に犬の飼い主には「きょうだい」(11.8%)、「遊び仲間」(8.6%)と、自分と対等な立場が続くのが特徴的であり、猫にはない「夫や妻」という回答があるなど、親密度の高さが伺える。

猫との関係性で特徴的なのが「いそろう」(10.6%)が「きょうだい」(8.7%)より多い点で、これは犬の場合と逆転している。猫は自由気ままに振る舞う習性を持ち、それを魅力とする飼い主が、少し距離を置いて付き合うことを意識していると推測される。

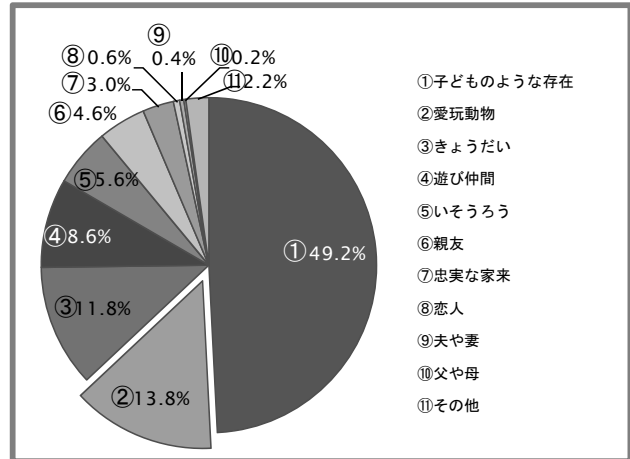
そんな気ままな猫の気持ちがわかると答えた飼い主は、9割にも達している。<グラフ3>

その9割もの飼い主は、猫のしぐさ、鳴き声、表情などから“お腹がすいた”“のどが渴いた”“トイレを掃除してほしい”“遊んで欲しい”“隣の部屋に行きたい”など…いま猫がどのような気持ちでいるのか、細かい要求を理解できるという。まさに「わが子」であり、それに応えることが猫(家族)とのコミュニケーションになっているのである。

住まいは、そんな親密な関係であるもう一人の家族と共に生活する場でもあるのだ。

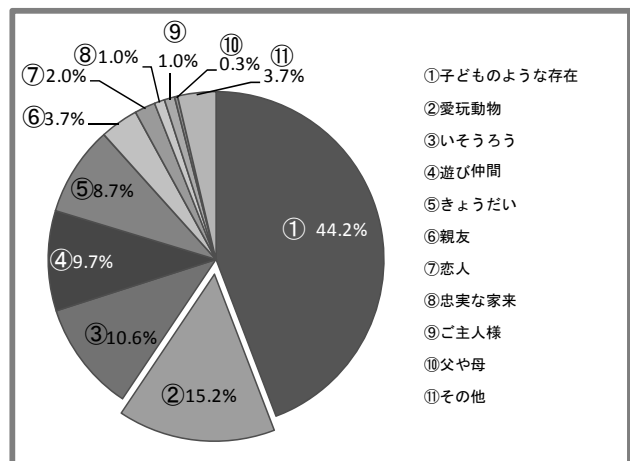
**飼い主が「人」として付き合い、
きめ細かく欲求に応じてもらうペットたち。
今や彼ら自身も自分のことを
「家族の一員」と思っているのではないか。**

犬はどのような存在か? n=500



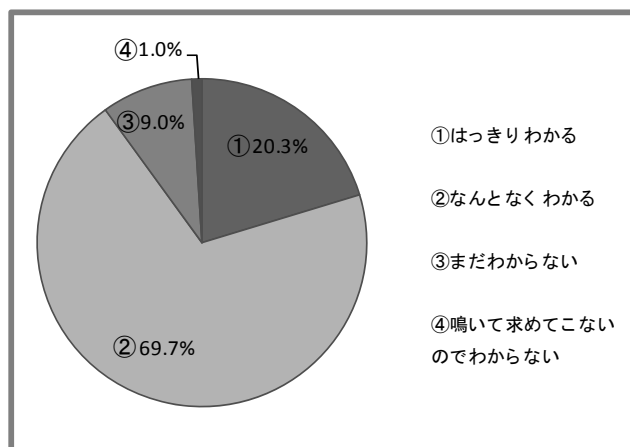
<グラフ1> 積水ハウス 住生活研究所調査 2007 ※巻末参照

猫はどのような存在か? n=300

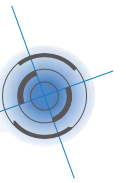


<グラフ2> 積水ハウス 住生活研究所調査 2007

猫の気持ちがわかるか? n=300



<グラフ3> 積水ハウス 住生活研究所調査 2007



Chapter 2

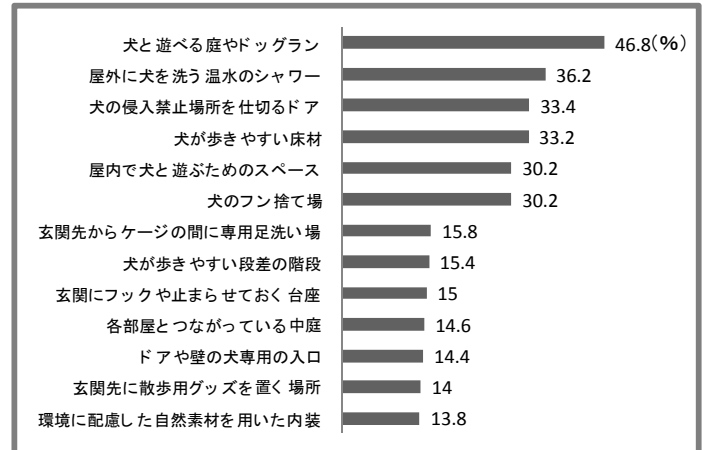
犬らしく元気に遊ぶ姿が好き、でも清潔さは欠かせない。

犬の飼い主が、住まいに求めるもののトップは、「犬と遊べる庭やドッグラン」(46.8%)と、約半数に上る。室内飼いが増えているが、屋外を好む犬の本能を満らし、生き生きと遊ぶ姿を安心して眺められることへの強い要望の表れと判断できる。<グラフ4>

同時に「屋外に犬を洗う温水のシャワー」(36.2%)「玄関先からケージの間に専用足洗い場」(15.8%)と、室内に入る前に犬を洗うことができるスペースへのニーズも少なくない。外で遊びたいけれど、共に暮らす室内では清潔でいてほしいという思いが強いようだ。

また「犬の侵入禁止場所を仕切るドア」(33.4%)のニーズも高く、いつも一緒にいたい気持ちはあるが、安全と互いの健康のために、ペットの行動エリアを決めてペットが入らない部屋をつくりたい飼い主も多い。

犬と暮らす住まいに欲しいもの n=500



<グラフ4> 積水ハウス 住生活研究所調査 2007

ペットと一緒に過ごす楽しさと、本来の家族の暮らしのあり方。
双方向の視点からバランスのとれた共住環境を整えることが重要！



ペットと家族の豊かな暮らしをかなえる設計事例

ともに楽しく、安全・健康に暮らす住まいの工夫



様子が見える「進入防止格子戸」
火や刃物を使うキッチンでは、不用意に走り回るペットがいると人にもペットにも危険。互いの様子が見える格子戸で仕切ることで、お互いに安心。

ペットの自由な行き来をかなえる「くぐり戸付きドア」

ペットトイレを置く水まわりと廊下など、常に仕切っておきたいけれどペットには自由な行き来が必要な場所に有効。



ペットも洗いやすい「多目的流し」

小・中型ペットのシャワーは、楽な体勢で使えるのが便利。手前に設置したシャワーで水跳ねを防止、また抜け毛にも配慮した排水口が特徴の多目的流しの計画が有効。



犬の本能を満らし、飼い主の喜びを広げる「ドッグラン・ガーデン」

屋外を走り回りたいという犬の本能を満たせる場所として、自宅の庭にドッグランを計画。複数のアジリティ（障害物）を設け、走行のスペースには犬の足にやさしいウッドチップを敷くなど、楽しさと安全の両面に配慮。飼い主には元気な犬の姿を眺めて楽しむ木陰のベンチを。



積水ハウス 住生活研究所では、「ペット共生住宅」に関する定期的な調査や継続的な研究を進め、生活者にとって有意義な情報発信や住まいづくりの支援を行なっています。本レポートでは、その一部を紹介しており、掲載以外にも多彩な調査・研究情報、実例などを有しています。

●カタログ・本・ホームページにおいても、ペットに関する多彩な情報を提供しています。



カタログ
ペットと暮らす家づくり「Dear One」



生活リテラシーブック
「生きものと暮らす」



(全128ページ)



積水ハウスホームページ「Dear One」

<http://www.sekisuihouse.com/style/suggestion/dearone/index.html>

●ペット共生をテーマにした施設や展示場など、各地にご覧いただける場所を用意しています。



※〈グラフ1〉～〈グラフ4〉の調査概要

調査名称:「ひととペットの生活実態調査 2007」 調査対象:現在犬と暮らしている20～69歳 n=500 / 現在猫と暮らしている20～69歳 n=300 調査時期:2007年11月 調査地域:全国 調査方法:インターネット調査

暮らしと住まいの研究を通じて、一人ひとりの豊かな暮らしと住まいをプロデュースする
積水ハウス 総合住宅研究所／住生活研究所

一人ひとりの豊かな暮らしと住まいの創出を目標に、居住環境と住まい手の関係を、人間生活工学や、心理、生理的な側面から研究。また、家族のあり方や生活スタイルなどから時代ニーズを捉えた調査研究を行い、住まいづくりや街づくりに活かしています。

〈おもな研究テーマ〉

- ・暮らしの安全安心の研究:ユニバーサルデザイン、防犯 etc
- ・人にやさしい環境の研究:睡眠空間、健康配慮設計 etc
- ・新しい暮らしと生活価値の研究:ペット共生、キッズデザイン、家庭菜園 etc



総合住宅研究所(京都府木津川市)

本レポートに関するお問合せ先

積水ハウス株式会社 広報部

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-88 梅田スカイビル タワーイースト

Tel:06-6440-3021 Email:info-ir@qz.sekisuihouse.co.jp